

慶應言語学コロキウム

【生成文法の哲学的意義 3】

経験主義的ドグマを乗り越えて

講師：阿部 潤 氏 (元東北学院大学文学部教授)

日時：2016年7月23日(土)・24日(日)13:00-18:30

会場：慶應義塾大学三田キャンパス北館3階大会議室

参加費無料 申込不要

本セミナーでは、Chomsky の *Reflections on Language* (1975) と *Rules and Representations* (1980) を取り上げることによって、生成文法が目指す内在的言語 (I-language) の解明がいかに行われるのかを考察する。17世紀の科学革命以来、自然科学では当たり前に行われる「抽象化」(abstraction) または「理想化」(idealization) によって、種々の自然現象の背後に隠された自然法則を明らかにしようとする「ガリレオのスタイル」(Galilean style) を踏襲して、言語使用の背後にあってそれを規制する内在的言語の諸法則とはいかなるものかを解明するのが、生成文法の最大の目標である。この「ガリレオのスタイル」に基づいた言語の科学的研究に対しては、しかしながら、クワインを代表とする言語哲学者から異論が唱えられ、波紋を呼んでいる。中でも、内在的言語を一生物器官として措定し、その生得的特性を明らかにしようとする点、また、そのような生物器官を解明するのに、その物理的基盤から離れてある抽象的レベルでその解明に当たっている点などが槍玉に挙げられている。この二冊の本を通して、チョムスキーがこのような主張に対して、いかに反論を加えているのかを検討していく。

※ *Reflections on Language*, *Rules and Representations* を持参することをお勧めする

主催：慶應義塾大学言語文化研究所
協力：慶應義塾大学次世代研究プロジェクト B

<お問い合わせ先>

〒108-8345 港区三田 2-15-45 慶應義塾大学言語文化研究所

電話：03-5427-1595 (事務室直通) メール：genbu@icl.keio.ac.jp

<http://www.icl.keio.ac.jp>